

ニセコ町という世界とつながっている  
町でシビックプライドを持ち、新たな  
ことを生み出したい生徒たちと、未来  
に責任を持つ大人たちと、失敗を恐れ  
ず未来を見据え次の一步紡ぐ毎日



## 中谷 知記 (なかに ともき) さん

ニセコ高校教員

1977年旭川市生まれ。サッカー少年として邁進。大阪商業大学に進学し卒業後は、商業の教員となる。岩内、真狩で教員をするなかで、休日にスノーボードで通っていたニセコエリアの環境にほれ込んだ。ニセコマラソンでランナーとして走っていた時に、山もあり、人も魅力的なニセコ町で暮らすことを決意し、移住したのが2012年。3年後、真狩高校教員からニセコ高校へ転勤となり、自宅と職場が徒歩5分ほどの毎日を送っている。

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。32回目となる今回は、ニセコ町に1ターンし、持続可能な観光地づくりなどをテーマに、日本各地から集まってきた生徒たちと挑戦し続けている中谷知記さんにお話を聞きました。

### ニセコ高校について教えてください

まず、ニセコ高校が掲げる育てたい生徒像についてですが、「シビックプライドを持ったグローバル人材の育成」です。私たちはニセコ町の地域特性を生かした教育で、地域に誇りを持ち、多様化するグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指しています。全国唯一の「緑地観光科」として、地域に根差した専門的な学びを充実させて、英語を中心に普通教科の教育にも力を入れています。

また、「課題研究」では、普通科で実施する「総合的な探究の時間」と同様の学習成果が得られるよう、地域課題を解決する探究活動に取り組んでいます。

そして、令和8年度に校名も変え、「進学型単位制総合学科」の新しい学校へと生まれ変わります。新しい学校は、グローバルなニセコ町を学びのフィールドとする「起業家教育」と「国際教育」が特色です。

現在の教育プログラムに、新しい学校になるときの教育プログラムを加え、先行して新たな学びを実施しています。今は新しい高校の準備期間とも言えますね。現在の1年生は40人の定員のうち約半数が寮で暮らしています。その他地元のニセコ、倶知安、蘭越、真狩などから通学しています。日本にいながら留学しているような学びを求める生徒も少なくありません。2年後には1学年2クラスで今の40人から70人に増えます。そのための新しい寮の建設も始まっています。

### 特色ある教育としてはどんなことがありますか？

視察・インターンシップの受け入れが多いことです。包括提携している台湾科技大学から教員が訪問。さらに、神戸大から新年度に兵庫県の高校で教員になることが決まった学生が2週間インターンシップで入ってくれて、ニセコ高校の生徒たちに国際教育やキャリア教育をしてくれます。また、校長が以前勤務していた京都の高校から55人の生徒たちが見学旅行で来るなど、受け入れ場面でのユニークな取り組みもあります。

### 生徒が外に出て学ぶという視点ではどうでしょうか？

国内外のまちづくりの先進地などを訪れ、フィールドワークを行っています。学校だけではできない体験を通して、新たな視点を身に付けることが目標ですね。本年度は、台湾、石垣島、京都、神戸、東京など、生徒が学びたい地域を探し、先方に依頼し行程や旅程企画管理も含め行っています。この取り組み「シビックプライドを持ったグローバル人材の育成」～ニセコと世界の境界線を溶かしていこう～は、令和5年に、三

菱みらい育成財団の「高等学校等が学校現場で実施する『心のエンジンを駆動させるプログラム』の研究助成に採択され実現しました。この事業は3年間の取り組みで、ニセコ町の課題が世界の課題と共通であることに気づき、その課題を解決することを通して、ニセコ町や自分の関心のある街に対して誇りや深い思い入れをもって、より良い地域を協創することにつながっていきます。彼らの活躍のフィールドは、きっと全国・全世界に広がるはず。もちろん将来的には、ニセコで活躍してくれる人材になってくれるよう期待しています。

### ご自身の未来についてお聞かせください

一人一役の時代は終わりを迎えつつあるように感じています。教員として全力を尽くしながら、趣味や特技を活かしてアウトドアガイドもこなす。さらに、まちづくり会社の一員として地域の調整役に携わる…。そんな10年後の自分像も良いと考えています。

実は、移住者や多様なバックグラウンドを持つ教員を集めるためにも、こうした多様な働き方ができる町がニセコ町であり、「ニセコ高校の教員ならそれが可能だ」という流れが生まれたら素敵だなと思っています。教育、地域貢献、まちづくり～そんな未来をつくる仕事を、自ら生み出していきたいと考えています。

(2025年1月取材)

### インタビュー後記

地元や日本、世界の各地に出かけて行き、多彩な人たちと関わりながら授業を行っている中谷先生の在り方を知り、教員を目指す学生たちや転職先に教育現場を考える若者に知らせたいと思いました。こういう働き方もあることを知れば、教員不足を打破できるのではと感じたからです。生徒にとっても地域の方にとっても好影響しかないその行動力の背景には、ご自身の好奇心とよりよい教育の提供をしたいという思いがあります。生徒たちにも、各方面との協働が当たり前の姿勢はきっと受け継がれていくに違いないはず。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表